

令和7年度 やざき乳児保育園 園評価

氏名

A:よく出来た B:おおむね出来た
C:やや不十分 D:不十分

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
教育・保育理念	(1)理念や基本方針を理解し、全体的な計画や指導計画に基づき保育を行っている		○			今年度は昨年度の課題を踏まえ、組織全体で保育の方向性を話し合い、目指す子ども像を掲げ5つの重点項目を決め保育を進めた。重点項目は保育を行う上で職員間で共有できる指針となり、また、日々の振り返りや期ごとの自己評価にも有効的だった。来年度も自分たちの現状を理解しそれに相応しい親点や項目などを決め、課題解決を行い、保育の質の向上に繋げていきたい。
	(2)今年度の目指す子ども像(安心して自分のやりたいことをみつけ夢中になって遊ぶ子)に向かって保育をすすめている		○			
	(3)職員間で5つの重点項目を意識した話し合いを行い保育をすすめている		○			
教育・保育の計画	(1)日々の子ども一人一人の姿や育ちを職員間で話し合い共有し、指導計画を作成している		○			互いに信頼できる保育者間の関係性を築き、日々肯定的に子どもの姿を語り合い、子の育ち等を共有することは出来た。しかし、話し合ったことを計画の中に落とし込むことが出来ていない課題も見えてきた。現在使用している様式に書きにくさや取り組みづらさを感じているので、負担感が少なく、それでいて保育に生かされる園独自の様式を使った保育計画の作成を今後進めていきたい。
	(2)目指す子ども像を踏まえ、子どものやりたい遊びが実現できるよう保育を計画している		○			
	(3)計画と実践を職員間で振り返り、見直しを持って次の計画を行っている		○			
アタッチメントの形成	(1)子どもが不安等で感情が崩れた時、共感的に受け止め、崩れた感情を立て直す手助けをし安心感を与えている	○				今年度より「安心の基盤」を形成することの重要性から0歳児クラスで担当制保育を導入した。特定の保育者との情緒的な絆を結ぶことで、安定した生活が送ることが出来、そのことにより安心感が得られ、興味の持ったものに自ら向かう姿が多くみられた。1,2歳児クラスでも個々をリスペクトし、クラスで些細な情報も保育者間で共有し個々の発達段階や個性に応じた関わりを心がけた。今後もアタッチメントを土台にして、子どもの育ちを支えていきたい。
	(2)心地い言葉を添えて応答し、子どもと気持ちを響き合わせている	○				
	(3)いつでも温かいまなざしでみまもり、子どもの欲求を速やかに理解し、丁寧に応対している	○				
	(4)余裕がない時でも、やさしく愛情豊に応答的にかかわっている		○			
思いや願いの尊重	(1)子どもの思いを肯定的に受け止め、その子の「よさ」を見出している	○				子ども一人一人思いや願いは異なるので、その子の気持ちに寄り添い理解することに努め、自己実現のため、応答的にかかわることを心がけた。その中で、安全管理の側面で戸惑い悩むことがあり、その都度、職員間で話し合いを積み重ねた。保育の中で安全管理はとても大切であるが、危険性があると思われるものを全て禁止し排除してしまえば子どもの発達は保障されない。ケースに応じた話し合いや共通理解による安全性の確保と発達支援の保障は重要で今後の課題として取り組んでいきたい。
	(2)言葉にならない個々の声に「聴き入る」姿勢でかかわっている	○				
	(3)子どもの思いや願いを汲み取り、子どもにとって何が一番良いのかを考え、主体性を尊重している			○		
	(4)安全性の確保に配慮しながら、子どもを信じて見守り子どもの意思を尊重している			○		
	(5)保育者の思い込みで先走ることなく、子どもの力を信じて見守る姿勢を心がけている		○			
子ども理解	(1)子どもとじっくりかかわるなかで、子ども理解を深めるよう努めている	○				今年度、園全体で担当制を取り組んだことにより、これまでより深く子ども理解が出来たようになった。しかし、単独で捉える子ども理解にも限界があり、不十分なままになってしまうこともあった。クラスの職員間で語り合うことで気づくことも多くあり、今後も子ども理解のために多様な視点で肯定的に語り合うことを大切にしていきたい。
	(2)何となく子どもの姿をみるのではなく、「どういうところに心動かされていたのか」等と深く探るようにしている		○			
	(3)一人一人の「その子らしさ」を肯定しながら見守り、日々子どもの育ちを発見し、職員間で共有している		○			

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
環境づくり	(1)子どもの興味関心に基づいた環境構成を行なっている			○		異年齢保育において、子どもの興味関心に基づいた環境構成は難しく苦慮することが多かった。また、子どもの姿をみて必要に応じた環境の再構成が十分にできず保育者主導になってしまいうことも少なくなかった。環境構成は保育の基本であり遊びが豊かになるためにはとても重要なことであるため、来年度の最重要課題とし、保育者一人ひとりが専門性を高め保育の質の向上に繋げていきたい。
	(2)子どもの姿をみて、環境の再構成を行っている			○		
	(3)職員間で話し合い、心揺り動かされる環境構成の工夫を常に行っている			○		
	(4)一人一人の子どものやりたいことが見つかる環境を設定している			○		
保護者支援	(1)日々子どもの育ちを伝えるようにし、その成長を共有し合うことを大切にしている		○			保護者の気持ちに寄り添い、一人ひとりの家庭の様子を聞いたり、園での様子や日々の成長を細やかにコドモンや送迎時に丁寧に伝えたりすることを心がけた。緊急時には、速やかで誠実な対応を心がけ、信頼を損なわないように努めた。今後も家庭との連携を密にし、保護者との丁寧な関わりを重ねながら継続的な信頼関係を築いていく。
	(2)保育の中で、大切にしている事を子どもの姿を通じて知らせるようにしている		○			
	(3)子どもや保護者の実情とその時々的心情を受け止め、必要な支援を行っている		○			
教育保育を支える組織基礎	(1)看護師を中心に、感染症やその他の疾病の発生予防に努め子どもが健康で安全な生活ができるようにしている	○				<p>・抵抗力の弱い乳児の小さな変化を見逃さない様、日々丁寧な観察を心がけてきたが、保護者との病気に対する認識の違いにより対応に迷う場面もあった。その為、保健だよりやコドモンを活用して情報発信を行い病気への理解を深めてもらえるよう努めた。また、年度初めに感染性胃腸炎の集団感染は、衛生管理を見直す機会となり、様々な環境改善を行った。そして、本件で学んだことを感染症BCPの内容に盛り込み作成へと繋げた。</p> <p>・避難訓練は、毎月様々な内容を設定して定期的を実施しており、災害発生初期の安全確保は身についてきている。しかし、訓練や流れ作業になってしまいう場面もあり、想定外の状況では役割分担が曖昧になる等職員一人ひとりの危機管理意識の低さが課題として見えてきた。改めて子ども達の大切な命を預かる保育現場であることを共有し、課題を放置せず話し合いを重ねながら職員の防災意識を高めていきたい。</p> <p>・園外保育時に職員間の連携が不十分なことにより事故へ繋がる事例が発生した。原因を検証し、マニュアルを職員全体で再度確認し、取組に関わらずその場の状況を的確に捉え、連携を密にしておくことを共有した。子どもと関わる全ての職員が安全対策を自分ごとと捉え、意識を高めていくことも共有した。</p> <p>・今年度、職員間で語り合い、子ども理解を中心にカリキュラムを作成することは、保育の質を高めるうえで非常に重要であることが分かった。しかし、施設の特性として多様な働き方の職員が多く、語り合うことやカリキュラム作成時間の確保への難しさが現状としてあった。次年度に向けて、今年度中に業務内容を洗い出し、子どもの姿を語り合い保育を計画する時間を高層的につくり出す体制を整えていく。職員一人ひとりが意欲的に保育に向かえる環境をつくり出していきたい。</p> <p>・キャリアアップ研修の積極的な参加や年2回実施した和泉先生のカンファレンスを通して保育に対する視点や専門性が養われ保育の質向上につながった。また、日々の保育や取組ごとに5つの重点項目に焦点化して振り返ることで、保育の軽さを感じつつも、保育の「楽しさ」を感じることも多くあり、保育の質の向上に繋がった。来年度は、カンファレンス回数を増やし職員全体で学びの機会をさらに多くし、スキルアップを目指していきたい。</p>
	(2)体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに適切な対応を行っている	○				
	(3)毎月の避難訓練に対して、高い防災意識をもって取り組み、その都度課題解決のため話し合いを行っている		○			
	(4)個人情報の漏洩や減却がない等適切な取り扱いを行い、子どもや保護者のプライバシーに配慮している		○			
	(5)どんな些細なことでも事故につながるものとしてヒヤリハット報告書を提出し、危機管理意識をもって業務にあたっている			○		
	(6)子どもの健康管理等を含め、職員間の報・連・相を日々怠ることがないよう努めている		○			
	(7)書類の提出期限(日案・研修報告書・各会議議事録・事故報告書・勤怠管理・事務書類その他)は順守している			○		
	(8)保育の質向上のため、自己研鑽に努めている		○			
	(9)自己評価結果に基づき、課題を明確にし改善するよう努めている		○			

やざき乳児保育園の評価結果に対する意見・コメント

園評価において、C評価のところは職員の皆さんでよく話し合いされ、保育者

ひとりひとりの専門性を高め質の向上をめざして下さい。

園外保育での危険な事例については、安全対策をしっかりと行い、すべての職員で

共有し安全意識を高めてください。日頃どんなに良い保育をしても、一気に

信頼関係を失うことになりかねませんので、十分に気をつけてください。

カリキュラムの作成は保育士として重要な仕事だと思いますので仕事の効率化を図

る為にもよりよい環境作りを行ってください。

今後も子どもたちの成長発達を見極めながら、丁寧な教育・保育をすすめていって

下さい。

令和 8 年 3 月 17 日

役職等 監 事

氏名 嘉藤 恵子

印

やざき乳児保育園の園の評価結果に対する意見・コメント

今年度から0歳児クラスで担当制保育を導入するなど、これまでの保育をそのまま良しとすることなく、よりよい保育をするために新たな取り組みにもチャレンジしたいという保育者のモチベーションを感じました。

そのようななかで子どもが主体的にあそぶことができる環境づくりを目指すも0歳児から2歳児の保育ということで、保育者主導になってしまうことに苦慮したことを踏まえ、「環境構成」を来年度の最重要課題としたことは今、保育に求められていることに合致していると思います。

保育者が環境づくりに手間をかければかけただけ、その環境の下での保育は実のあるものになると思います。これからの取り組みに期待しています。

令和 8年 3月18日

役職等 監 事

氏 名 森 和 美